



地球温暖化を防ぐため、 シヤチハタにできることから始めます。

シヤチハタは、事業活動にともなう温室効果ガスの排出量を削減するために、生産事業所におけるエネルギー利用効率の向上や再生可能エネルギーの導入、オフィス拠点での省エネルギー機器の導入や節電対応、物流効率の向上など、グループ全体で取り組みを進めています。さらに、サプライチェーン全体を視野に入れ、地球温暖化防止に向けた効率的な対策の推進に努めていきます。

グループ会社全体での温室効果ガス排出量

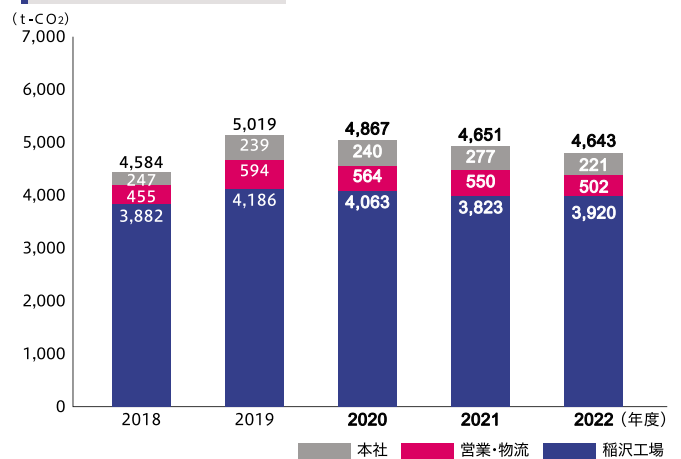
当社は「低炭素社会の実現」に向けて、グループ会社全体の温室効果ガス排出量を把握することの重要性を認識し、2000年よりグループ会社全体の温室効果ガス排出量を算定しています。

今後、温室効果ガス排出量が多い「材料調達段階」の排出量削減に寄与する製品の普及およびさらなる開発を推進し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいきます。

CO₂排出量

シヤチハタ全社の2022年度のCO₂排出量は4,643tで、2021年度の4,651tから8t減少となりました。これは2022年度の本社および営業・物流における排出量減少に伴うものです。今後も生産工場の消費電力削減に向け、より一層取組みを進めていきます。また、省エネ法の対応として、生産拠点以外の本社や他の営業拠点及び間接部門においてもCO₂排出量を把握し、省エネ活動による排出削減を継続していきます。

CO₂排出量の推移（全社）

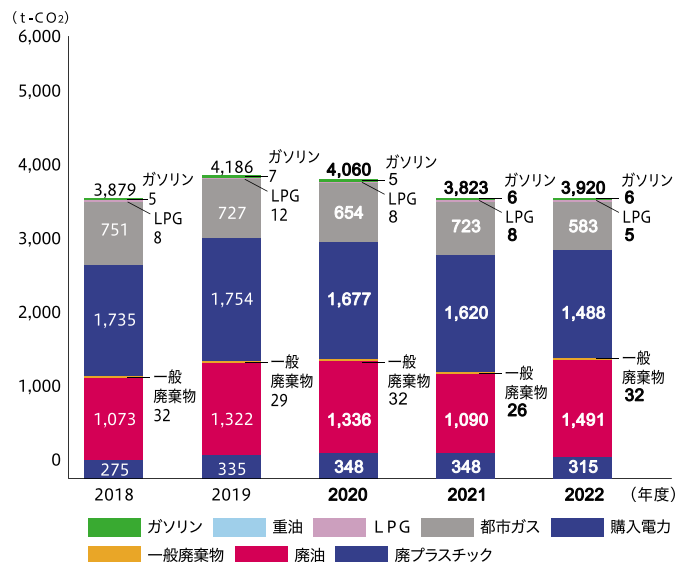


エネルギー別CO₂排出量

稲沢工場の2022年度におけるCO₂排出量のエネルギー別内訳を見ると、電力使用にともなうCO₂が1,488t、廃油由来のCO₂が1,491t、都市ガスの燃焼によるCO₂が583t、廃プラスチックによる315tのCO₂が排出されています。

シヤチハタでは外部に最終処分を委託している一般廃棄物や産業廃棄物（廃油、廃プラスチック）の焼却によって排出すると思われるCO₂排出量も把握。その削減はシヤチハタの責務であると認識し、取組みを進めています。

エネルギー別CO₂排出量一覧（稲沢工場）



地球温暖化防止

シヤチハタでは、生産部門、間接部門をあげて、地球温暖化防止を推進。
地球温暖化防止に向けて、できることから着実に実行していこうとしています。

CO₂フリー電気の調達開始



2021年10月から稲沢工場では「CO₂フリー電気」の調達を始めました。
工場で使用する電気の一部を、CO₂フリー電気に置き換えることとなります。

CO₂フリー電気とは、水力・風力・太陽光などの再生可能エネルギー発電によって作られた電気を、電力会社がCO₂フリーという価値を付けて販売する制度のことです。電力単価は通常より高くなりますが、その代わりにCO₂フリー電気を調達した企業は、調達した電力量に相当するCO₂の排出量をゼロとしてCO₂排出量を算定し、国への報告に使用することができます。結果として企業のCO₂排出量を減らすことができるのが、この制度のメリットです。

日本のCO₂削減目標は、2030年には2013年度比で46%減、2050年にはCO₂排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）となっています。

国のCO₂削減目標に近づけるべく、稲沢工場でもCO₂排出量を削減するという目標を掲げており、CO₂フリー電気調達は目標実現の為の第一歩となります。

シヤチハタテクノ さいたま工場の取組み

2022年12月レーザー加工機への切替えが完了し、チラーは使わなくなり、コンプレッサーの稼働少なくなりました。これにより1万kWh/月の電力削減、年間60t程度のCO₂削減となり、前年度と比較して10万kWh削減となりました。



GX促進に向けたカーボンフットプリントの製品別算定ルール策定事業への参加

シヤチハタは、2023年(令和5年)度経済産業省が実施する「GX 促進に向けたカーボンフットプリントの製品別算定ルール策定支援事業」への参加を決定いたしました。本事業では、サプライチェーン全体の排出量削減に貢献する先進事例の創出を目指し、文具業界で統一された製品別算定ルールの確立を目指しています。